
爆音のジェ

相樫りわ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

爆音のジン

【ZINE】

Z9105E

【作者名】

相樺りわ

【あらすじ】

見知らぬおじさんから高品質のスピーカーをもらつたジン。小説とは呼べないほどの短さ！！感動要素は含まれません！！！爆音のジンという異名を持つた男の、訳の分からぬ日々をつづつた短編物語。

(前書き)

あらすじでも述べましたように、小説とは呼べないほどの短文と内容です。感動・恋愛・シリアス要素は含まれません。瞬間に終わる小説なので、どうぞこれまでお付き合いを～～～（強引）！！！

ジHは歩いていた。と、向いから何かがやつてくる。

「誰？」

そこには、ジHに、スピーカーをくれた。スピーカーは、高品質の、
すいじへいこやつだった。

初めは、ジHは、喜んでそれを持ち歩いた。でも。

スピーカーは、高品質のすいじへこやつだったけど、すいじへいこやつ
がつた。遂に、ジHはキレた。

「いのわこお…………黙つてお…………（いのきれ方…………）…………」

しかし。スピーカーの音はますますいのわくになり、ジHはそのうち
「爆音のジH」と呼ばれるようになり、人々は「爆音のジH」をつ
るさがつた。騒がしい「爆音のジH」は、毎日毎日キレていた。

ある日、爆音のジHは、ある細い道へ行こうと決心した。スピー
カーをくれたやつと会つた道だ。

と、向いから何かががやつてくる。スピーカーをくれたやつだ。爆
音のジHは、そいつをちょっととこじめた。だってムカつくんだもん
！――

そいつは、大きな麦藁帽子を口深にかぶっていた。茶色のポンチョをひきずるようにして着ていて、緑のブーツをぶかぶかに履いたちつちやな男だった。

「おこる前！！」

何

その人は、氣のなさそうに答えた。爆音のジハは、むづとした。

何しやしない——お前人は爆音のジミとかいふ変な名前付けてやがつて——」

「…………ねえ君、世界にマーマレードはあってもパー・パレードがないのはなんでだと思うかい？」

すると、突然そいつはポンチヨを脱ぎ捨て、かつたるい古ぼけたブーツをふつとばし、麦藁帽を爆音のジエの方へ放り投げた。爆音のジエがバツと麦藁帽を受け止めてそいつの方を見ると、真っ白な歯が、眩しく輝く。

「まっ、眩いー！ その輝きは、パーパレードおじやん！？」

「なんだよおーーー。どうせそんなんだかうとは思つてたけ

「ほんとにパークレードおじさんだつたなんて…！」

「はつはつはつはつはつはー！パーパレードおじやんは、いつでもど
こでも神出鬼没！油断するたび出でくるのセーフティーフィフ、はつ
はつはつはつはつはつはつはー！……」

そいつは、笑いながらジャンプしてどこかへ去つていった。爆音の
ジユは、感動したので、スピーカーを家宝にする誓つた。

・・・

THE END . . .

(後書き)

はい、めりむけくひやな小説でしたね！

じつじて爆音のジHは一生爆音のジHと呼ばれる」となりました。
パー・パ・レードおじさんの正体やいかに…？ この疑問は解消されません！ 知りたい方はお知らせください（いねえ！！

ではでは、これからもどうぞよろしくお願いします！

じ・えんじ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9105e/>

爆音のジェ

2011年1月16日09時40分発行